

市民のしあわせ実感モニタリング

< 結 果 >

令和7年10月

丹波市総合政策課

はじめに

開催の目的

丹波市では、令和7年度から10年間を計画期間とする第3次丹波市総合計画を策定し、市民がしあわせを実感できるまちを目指している。

市民が、対話により、丹波市での暮らしのなかで、しあわせを実感できているかを検証するとともに、一人ひとりの幸福感を高めるためには何が必要かを考える、「市民のしあわせ実感モニタリング」を開催し、市民の意見や想いを取り入れた政策の立案・検討の参考資料とする。



はじめに

全体スケジュール

Step. 1 実態把握

▼デジタル庁が推奨する全国統一項目のアンケート調査(市民1,000人対象)で、市民の幸福感を調査

市民のしあわせ実感調査(アンケート)

令和6年11~12月

Step. 2 意見聴取

▼モニタリングするテーマや市民の関心の高い分野を調査

モニタリングに向けた事前アンケート調査

令和7年4~5月

Step. 3 検証

▼しあわせ実感に関して市民が検証・意見交流

市民のしあわせ実感モニタリング

令和7年6月26日

現在ここ！

Step. 4 企画

▼市庁内で施策・取組の検討

実施計画作成・見直し

令和7年12月

Step. 5 公表

▼実施計画の公表

議会報告・市ホームページ掲載

令和8年3月

市民のしあわせ実感の実態把握

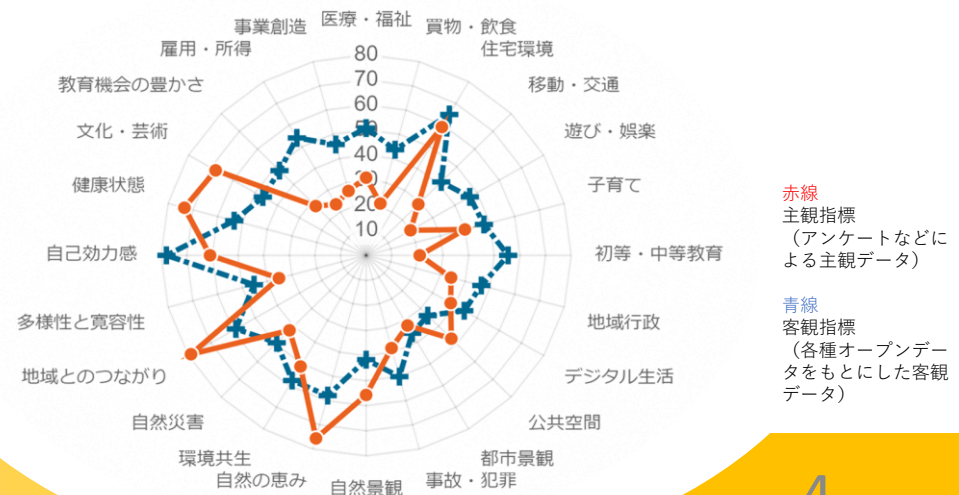
市民のしあわせ実感調査(アンケート)の実施・結果

- 1 調査期間 令和6年11月28日～12月26日(22日間)
- 2 調査方法 市内在住者15～89歳 無作為抽出1,000人 Web調査
- 3 結果公表 地域幸福度 Well-being指標活用サイト(デジタル庁サイト)
▶ <https://well-being.digital.go.jp/>



市民のしあわせ実感に関する実態把握の
参考資料として、モニタリングに活用

丹波市しあわせ実感調査結果(R6年度)



モニタリングに向けた事前調査・意見聴取

モニタリングに向けた事前アンケート調査の実施・結果

- 1 調査期間 令和7年4月30日～5月18日(19日間)
- 2 調査方法 市内在住者15～79歳 無作為抽出1,000人 Web調査
- 3 回収数(回収率) 66人 (6.6%)
- 4 結果公表 別紙「しあわせ実感モニタリング 事前アンケート回答一覧」のとおり

事前アンケートの結果の概略

しあわせ実感の向上に関して、意見聴取を行った結果、医療・福祉や健康状態、子育て、地域とのつながり、遊び・娯楽に関する意見が多数あり、市民の生活において身近で、特に関心が高まっている分野であることが分かった。

これらの分野は、市民のしあわせ実感に直接関係しており、市民が事業効果を感じやすい分野と言えることから、しあわせ実感向上のキーワードとして設定し、モニタリングでの対話を進める糸口とした。

市民のしあわせ実感モニタリングの実施

実施の概要

開催日時	令和7年6月26日(木) 午後7時～午後9時
開催場所	丹波ゆめタウン ポップアップホール
参加者数	19名 (市内在住者15～79歳・無作為抽出1,000人のうち参加承諾者)
全体進行	福知山公立大学地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀
全体テーマ	市民のしあわせ実感とその向上について
プログラム(次第)	1 開会 2 あいさつ 3 市民のしあわせ実感モニタリングについて説明 4 ワークショップ 5 総括 6 閉会

市民のしあわせ実感モニタリングの実施

ワークショップの方法

事前アンケート調査の結果から、「医療・福祉・健康」、「子育て」、「地域とのつながり/楽しみ」の3つの分野を対話の糸口とし、モニタリングの参加者自身の生活背景を踏まえ、丹波市での暮らしの魅力やしあわせ実感を高めるためのアイデアなど、5グループに分かれ、ワークショップ形式で意見交流した。

しあわせ実感を向上させるには？

自分や家族はしあわせを感じている？

今の暮らしに満足している？



事前アンケート調査で、いただいた意見があった人の生活背景は？

自分の生活におきかえて考えてみると？

市民のしあわせ実感モニタリングの実施

モニタリングの様子

事前アンケートでいただいた意見を参考に、ワークショップ形式でモニタリングを進めている様子



最後は、話しあったことをグループの代表者が発表。参加者は、自由にテーブルを移動して、関心のあるグループの発表を聞いてまわった。



市民のしあわせ実感モニタリングの結果

モニタリングの結果概要

今回のモニタリングでは、同世代やこども、子育て世帯など共通する話題を持つ人、多世代間交流など、様々な形で人と人とのつながりを重視する意見が多くみられた。

新しい出会いやつながり、頼れる支援者・協力者を増やしていける環境づくりは、医療や福祉、防災、防犯、地域運営、こどもの安全・安心、子育てなど、あらゆる分野での効果が期待でき、市民がやりたいことを叶える原動力や丹波市に暮らし続けたいと思える大きな理由となる。

また、こどもや若い世代、女性などに関する意見が多くみられ、これらの層が魅力を感じる丹波市ブランド・イメージをつくる取組・制度の充実、情報発信力を高めることが、すべての市民のしあわせ実感につながる。

モニタリングの結果は、第3次丹波市総合計画に定める7つの重要視点において、市民がしあわせを実感するまちとしてのポイントや、まちづくりを進めるキーワードとなる事項を整理するとともに、政策を推進するための基礎資料として活用していく。

市民のしあわせ実感モニタリングの結果

重要視点1 人口減少社会への対応・備え

ポイント

- ・自分や家族が健康に暮らせる。
- ・高齢になっても、安全・安心に暮らせる。
- ・みんなで地域を支える。

キーワード

暮らし続ける

- ・こどもから高齢者まで安心して、医療・福祉サービスを利用できる環境の整備を行う。
- ・住まいや農地を維持するため、新しい手段の検討や関係人口との関わりを創出し、深めていく。
- ・免許証を持たなくても、移動しやすいまちにする。また、サービスを活用して移動できる人を増やす。

地域の運営

- ・自治協議会や自治会、地域組織の抱える課題や役員負担の棚卸と改善を行う。
- ・女性のコミュニティ形成や地域活動に参加する機会を増やす。
- ・若い世代が自治会や消防など地域活動に参加し、同世代や多世代とのつながりを持つ。
- ・外国人や移住者などを地域が受け入れる体制整備をする。

市民のしあわせ実感モニタリングの結果

重要視点2 まちの未来を担う人の育成

ポイント

- ・若い世代や女性、外国人などが活躍できる。
- ・やりたいことが叶う、応援してもらえる。
- ・こどもが安全・安心に、遊び、学び、成長できる。

キーワード

誰もが活躍できる

- ・性別や年齢、国籍を問わず、働きやすい職場や地域活動に参加しやすい風土をつくる。
- ・趣味や地域貢献の場に自分から出会い、関われる機会をつくる。
- ・起業を考える人への支援やセミナーなどを実施する。

こども

- ・こどもがいじめにあったり、犯罪に巻き込まれることを防ぐ。
- ・こどもが地域貢献できる機会をつくる。
- ・学校だけでなく、家庭、地域、企業が協働して、こどもの学び、交流を進める。
- ・医療・福祉、教育を支える職業や人材を守り、育てる。

市民のしあわせ実感モニタリングの結果

重要視点3 市民・地域・将来世代のしあわせの実現

ポイント

- ・若い世代や子育て世帯に選ばれるまちづくり。
- ・丹波市に大切にしたいと思える、人やコトとのつながりができる。

キーワード

暮らしやすさ

- ・若い世代や子育て世帯に魅力のある制度整備やまちのイメージ戦略を行う。
- ・産科や小児科などの選択肢があり、通しやすい環境をつくる。
- ・子育てしながら働き続けられる企業を増やす。
- ・若い世代や子育て世帯の家計の負担を減らす。
- ・地域に偏らないインフラの整備(水道水の水改善など)を進める。

暮らしの楽しみ

- ・こどもが遊べる公園や雨の日でも利用できる屋内施設を整備する。
- ・こどもが地域の人と関わったり、自然のなかで外遊びをする習慣をつくる。
- ・若い世代が余暇を楽しむ場所や人気のある商業施設などを呼び込む。
- ・新しい友人や異性と出会える場をつくる。

市民のしあわせ実感モニタリングの結果

重要視点4 新たな時代への投資・挑戦

ポイント

- ・暮らしたい、暮らし続けたいまちに向けた魅力を創造し、情報を発信する。
- ・少子高齢化、過疎化が進行するなかでも、暮らしを快適・便利にする。

キーワード

ブランディング

- ・都会の人や若い世代、子育て世帯が暮らしたいと感じるまちとしての戦略と情報発信力を強化する。
- ・観光や市内の飲食店、また様々な企業などが連携して、まちの活性化に取り組む。
- ・病院や商業施設、託児所などへのアクセスが便利なまちの整備を進める。

デジタル化・効率化

- ・買い物など様々な生活シーンを、スマートフォンやパソコンで完結できるようにする。
- ・多様化するライフスタイルに応じて、リモートワークなど働き方の選択肢を増やす。
- ・農業や草刈りなど、手間や人数がかかる仕事の効率化に向けて、機械やAIを活用する。

市民のしあわせ実感モニタリングの結果

重要視点5 ふるさと丹波市らしさの継承

ポイント

- ・誰もが市外の人に丹波市の自慢できるものを言える。
- ・丹波市ならではの伝統や文化が守られる。
- ・移住者が考える「丹波市での暮らし」、「田舎暮らし」のイメージ、魅力が守られる。

キーワード

丹波市の魅力

- ・地域の人の顔が分かり、支えあえる関係づくりを進める。
- ・誰もが気持ちよく過ごすための生活のルール(ごみ捨て、交通)を守る。
- ・恐竜や安全・安心なおいしい野菜などを活かしたまちおこしを進める。

地域への愛着

- ・若い世代やこどもが地域貢献に関わる機会をつくる。
- ・豊かな自然環境を維持するため、耕作放棄地や森林の管理などに理解を示し、取組に関わる若い世代を増やす。
- ・地域の伝統や文化、祭りに参加、協力する若い世代やこどもを増やす。

市民のしあわせ実感モニタリングの結果

重要視点6 災害に強くしなやかなまちの形成

ポイント

- ・地域のコミュニケーションがとれている。
- ・自主防災のあり方が見直しされる。

キーワード

助けあえる関係づくり

- ・地域に住んでいる人と普段からあいさつや声掛け、地域活動などで交流する機会を持つ。
- ・義務だけではない、若い世代が参加したいと思える、魅力ある地域の自主防災を考えていく。

災害への備え

- ・地域の役割負担を見直し、これまで自主防災に関わりの少なかった女性やこども、外国人などの参加を増やし、みんなで助け合う意識を醸成する。
- ・管理が放棄されている土地や空き家の対策を進めていく。

市民のしあわせ実感モニタリングの結果

重要視点7 多様な生き物を育む環境の保全

ポイント

- ・多様な生き物が暮らしやすい環境がある。
- ・四季がよく感じられ、市外の人に自慢できる美しい自然環境がある。

キーワード

自然環境の保護

- ・こどもが外遊びのなかで自然を学び、大切にしていける機会をつくる。
- ・こどもから大人まで、丹波市の自然環境を学び、保護活動などに参加する。
- ・草刈りやごみ拾い、放棄された土地の管理に、若い世代など新しい協力者を増やす。

農業

- ・地元産の安全・安心で、おいしい農産物を育てる人材や環境を守る。